



小手中魂

所沢市立小手指中学校 校長 結城 尊弘 令和7年4月30日発行
【生徒数：1学年199名 2学年188名 3学年243名 8組12名 合計642名】



4月23日 全校朝会 校長講話 「子どもが主役となる学校を目指して」

新年度スタートから約1カ月が過ぎました。3年生は、最高学年としての自覚も生まれ、あらゆる取組に力を発揮し、特に真剣に学習に向かう姿が素晴らしいと思います。2年生は、お互いの声掛けで、生徒の力で動くことができています。特に給食や清掃の取組が素晴らしい。1年生は中学校生活にも慣れてきて、リズムがつかめてきています。挨拶が本当に素晴らしいです。8組、挨拶や学習の取組も飛躍的に成長していると感じています。全体的にはよいスタートが切れており、これからが益々楽しみです。

結びに 小手中には四季折々の花が咲き続けます
642（生徒数）通りのそれぞれの花を咲かせよう



さて、今日は、私が考える令和7年度の小手指中学校について、お話をします。私は、**生徒が主役になる学校**を目指したいと考えています。

まずは、小手中の歴史です。5月2日で開校79年の節目を迎えます。長い歴史においては、先生と当時の生徒たちが力を合わせて、様々な困難を一つ一つ乗り越えてきたはずですが、それを保護者や地域の方々がいつも支え、応援してくれたからこそ、今があるのだと思います。これからも、**地域と共に歩む中学校として、地域の誇りや希望でありたい**と思います。そのために、清新で魅力ある学校づくりを進め、子どもの幸せを第一に考える協力・応援体制を作りたいと考えています。

次に学校教育目標についてです。学校教育目標は『**主体的にたくましく生きる生徒**』です。主体性とは、やるべきことを自分で決めて、自分で判断・行動することを指します。ここには、意志や判断があります。そして、たくましくとは、変化の激しい現代社会を生き抜く力を指します。言い換えると、自分力の発見ということ、自分で自分を信じられるということです。

目指す学校像は **潤いと笑顔と歌声のあふれる学校**です。**チーム小手指**と**小手中魂**が合言葉になっています。

小手中の強みと魅力は、生徒会活動や委員会活動が充実しており、自発的自治的な活動が広がりつつあることです。地域ボランティアにも、積極的に参加してくれており、地域貢献と交流の場となっています。

小手中のもう一つの魅力は、部活動の充実にあります。あと1カ月後には、陸上を皮切りに、様々な競技で、3年生最後の全国につながる大会が待っています。一日一日の練習も大事ですが、学校生活即部活動の意識で、限られた時間で結果を出してくれることを大いに期待しています。

令和7年度 学校教育目標を達成するための重点目標は、『**共に～together～**』です。『共に』とは、みんなで、一緒に、誰一人置き去りにすることなくということです。

「高い山に登るには、一人では危険だから、チームが必要だ。大切なのは役割分担。誰か一人でも取り残すと、山頂に到達できない。だから、自分のためにも、みんなのためにも、歩みの一番遅い人を大事にしなければいけない。「自他共の幸福」を追求すれば、効率的に高みにたどり着ける。勝者は…みんなです。」これは神野直彦東京大学名誉教授の言葉です。競い合うだけでなく、協力し合うことの大切さを学んでほしいと思います。さらに、**協力し合う一人一人に確かな力が備われば、より高い山にも、より高い目標にも到達することができるはず**です。

結びに 小手中には四季折々の花が咲き続けていきます。是非、この一年、生徒数642名、642通りのそれぞれの魅力ある花を咲かせていきましょう。以上で私からの話を終わりにします。

